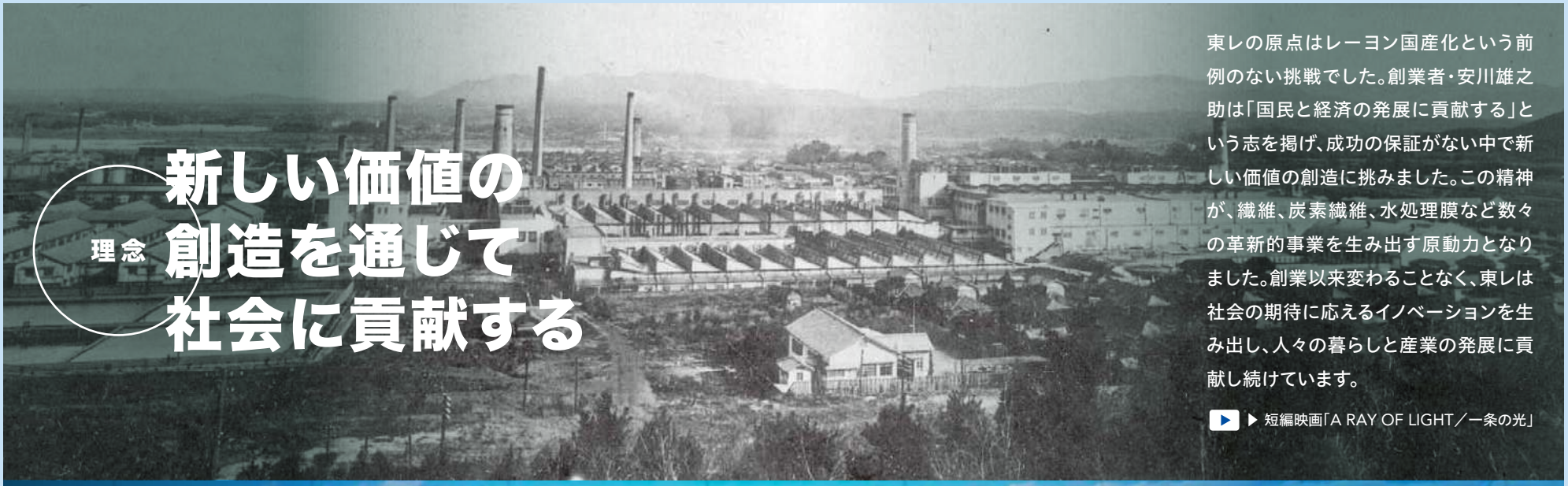
特集：100年にわたる価値創造の軌跡

東レの100年を支えたDNA

1926年の創業以来、東レは社会の変化を見据え、素材の可能性を新たな市場と社会的価値へ変えてきました。その歩みを支えてきたのが、世代や事業領域を超えて受け継がれてきたDNAです。社会課題を起点に、人と技術へ長期的視点で投資し、パートナーとともに市場を創る。この一貫した価値創造の仕組みが、東レの持続的な成長と競争優位の源泉となっています。



理念 新しい価値の創造を通じて社会に貢献する

東レの原点はレーヨン国産化という前例のない挑戦でした。創業者・安川雄之助は「国民と経済の発展に貢献する」という志を掲げ、成功の保証がない中で新しい価値の創造に挑みました。この精神が、繊維、炭素繊維、水処理膜など数々の革新的事業を生み出す原動力となりました。創業以来変わることなく、東レは社会の期待に応えるイノベーションを生み出し、人々の暮らしと産業の発展に貢献し続けています。

▶ 短編映画「A RAY OF LIGHT／一条の光」



人を基本とする経営 人材

「企業は物をつくるだけでなく、人をつくらねばならない」「工場をもって人間修養の場とする」「企業の盛衰は人が制し、人こそが企業の未来を拓く」。歴代の経営者が受け継いできた想いが「人を基本とする経営」の礎となっています。社員一人ひとりの成長を促し、挑戦を後押しする風土が、新たな技術や事業を育んできました。人を信じ、その可能性に投資する。この企業文化が東レの持続的な成長を支えています。



研究・技術開発

極限追求と超継続

「深は新なり」。深く追求した先にこそ、新たな可能性が開ける。東レは創業以来、研究・技術開発を経営の中核に据え、この信念を貫いてきました。一つのことを深く掘り下げ、新たな可能性を切り拓く「極限追求」。素材の可能性を見極め、磨き込みながら粘り強く価値創出に取り組む「超継続」。炭素繊維複合材料が航空機の主要構造材として世界に認められるまで50年。未来を見据えて歩みを止めないDNAが、世界の産業と社会を支える先進材料を生み出しています。



共創

パートナーとともに市場を創る

ボーイングとの航空機用炭素繊維複合材料の開発、ユニクロとの「ヒートテック®※」開発など、東レの成長はパートナーとの共創の歴史でもあります。素材を提供するだけでなく、最終製品が生み出す価値まで見据えて、技術や供給体制を磨いてきました。川下市場に深く関わることで潜在需要を捉え、素材の性能を新たな市場へ結びつける。有力なパートナーとの長期的な共創関係は、新たな価値の社会実装と事業拡大を支え、継続的な成長を実現する東レの価値創出モデルとなっています。

※ヒートテック®は(株)ファーストリテイリングの登録商標です。

特集：100年にわたる価値創造の軌跡

東レは100年でどんな価値を提供し、どのように進化したのか

東レグループは1926年にレーヨンの生産会社としてスタートし、ナイロン、ポリエステル、アクリルといった3大合成繊維に加えて、フィルム、ケミカル、樹脂、さらには電子情報材料、炭素繊維複合材料、医薬・医療、水処理といった様々な分野において革新技術を開発し、多くの先端材料、高付加価値製品を創出してきました。2050年に目指す世界を掲げ、その世界の実現に向けて革新技術・先端材料がどのように社会課題の解決に貢献するかという視点を持って、引き続き長期的な企業価値の向上を目指しています。

レーヨンによる創業とナイロンの工業化

東レは、1926年1月、旧三井物産※によって設立され、人類初の化学繊維であるレーヨン糸のメーカーとしてその第一歩を踏み出しました。1927年8月には、滋賀工場でレーヨン糸の初紡糸に成功しました。

※旧三井物産は、現在の三井物産と法的連続性のない全く別個の企業体です。

1971
スエード調人工皮革の販売開始

軽さや優れた発色性からファッション素材として高い評価を受け、現在はウルトラスエード®、アルカンターラ®の両ブランドでグローバルに展開し、自動車内装や家具など幅広い用途に用いられています。



炭素繊維 トレカ®の製造・販売開始

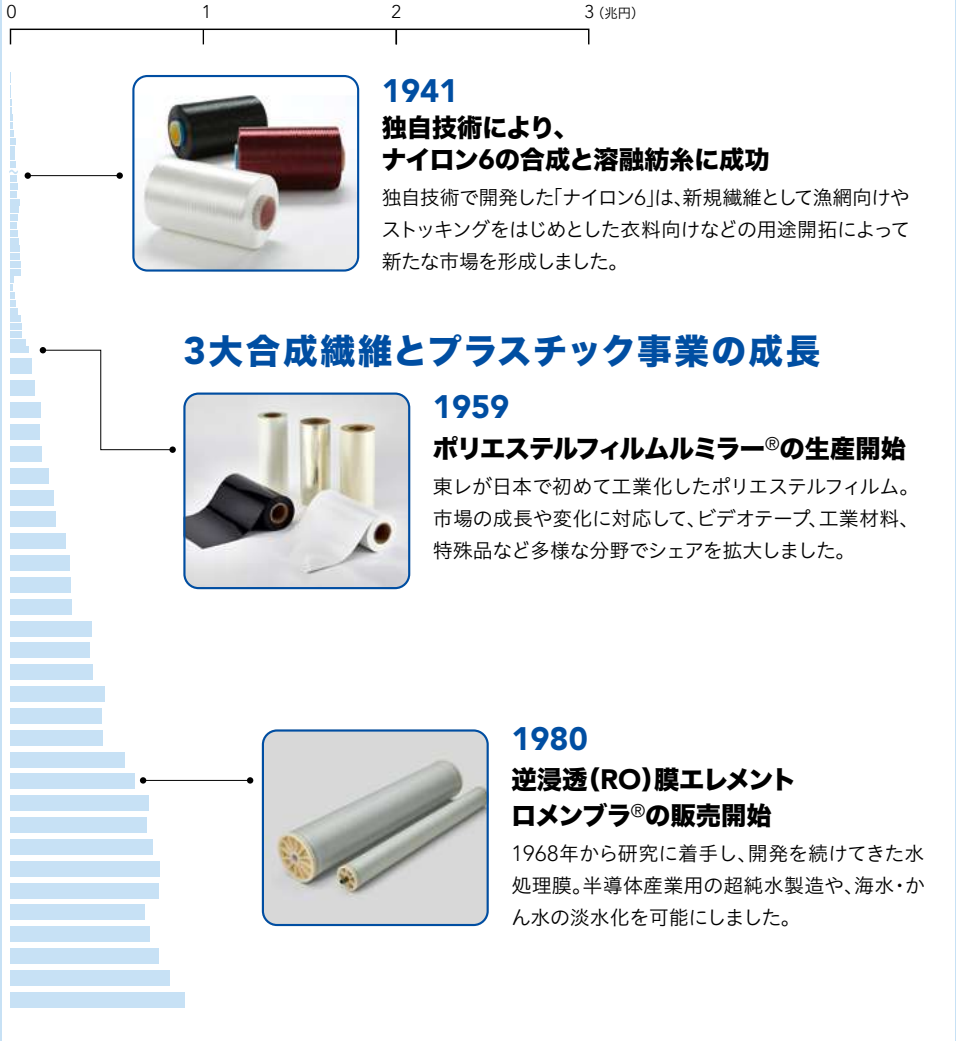
「軽く、強く、剛い」という優れた特性を持つ高機能炭素繊維。商標を“トレカ（TORAYCA）”と定め、1971年から販売活動を開始しました。



1990
トレカ®プリプレグが米国ボーイング旅客機の一次構造材に認定

釣り竿、ゴルフシャフトなどのスポーツ用途向け開発で技術・品質を向上させ、航空機の二次構造材に採用されて信頼性を積み上げた炭素繊維は、ボーイング777型機向けで初めて機体の安全性を支える一次構造材として認定を得ました。





1941
独自技術により、ナイロン6の合成と溶融紡糸に成功

独自技術で開発した「ナイロン6」は、新規繊維として漁網向けやストッキングをはじめとした衣料向けなどの用途開拓によって新たな市場を形成しました。

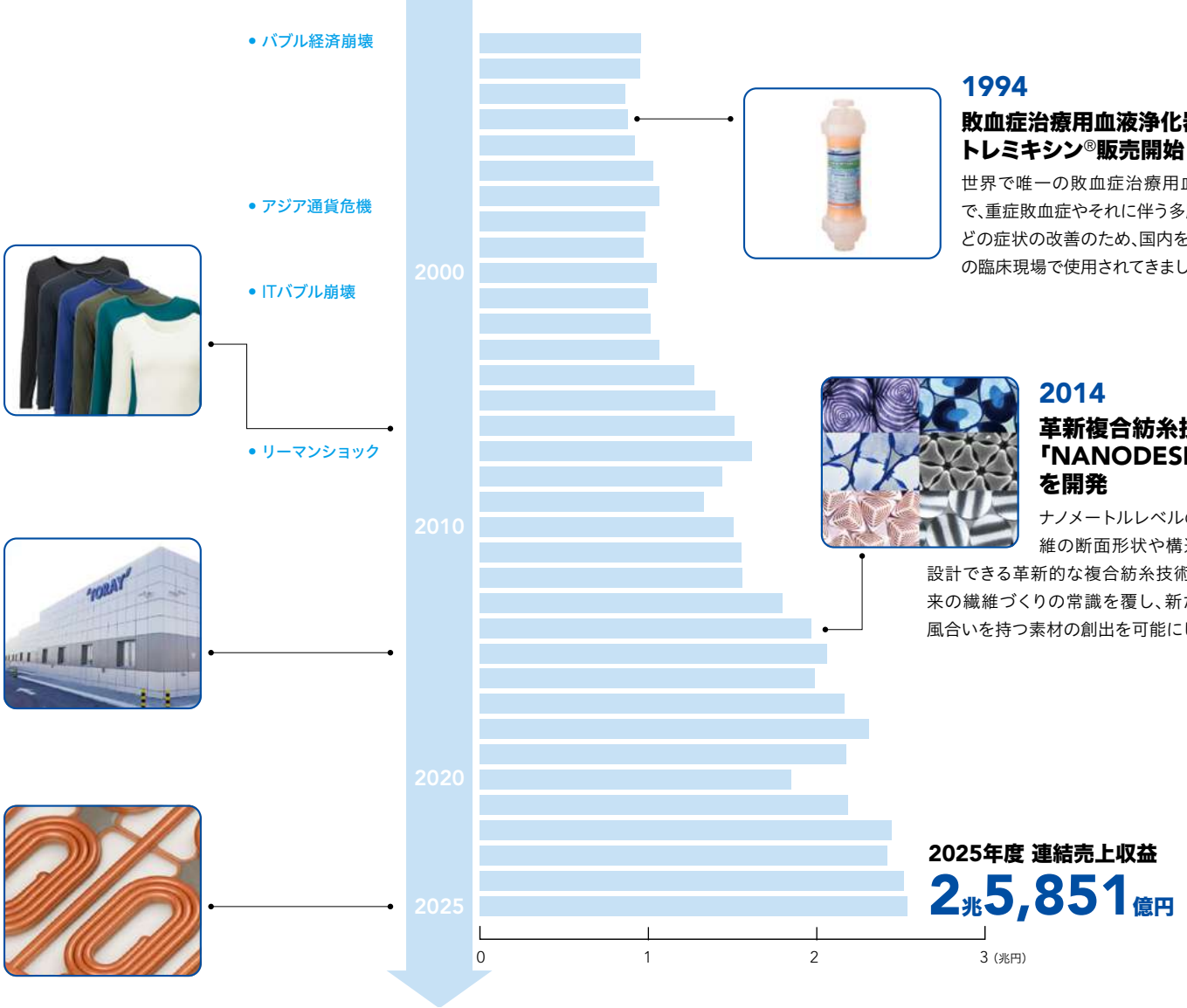
3大合成繊維とプラスチック事業の成長

1959
ポリエステルフィルムルミラー®の生産開始

東レが日本で初めて工業化したポリエステルフィルム。市場の成長や変化に対応して、ビデオテープ、工業材料、特殊品など多様な分野でシェアを拡大しました。

1980
逆浸透（RO）膜エレメント ロメンブラ®の販売開始

1968年から研究に着手し、開発を続けてきた水処理膜。半導体産業用の超純水製造や、海水・かん水の淡水化を可能にしました。



1994
敗血症治療用血液浄化器 トレミキシン®販売開始

世界で唯一の敗血症治療用血液浄化器で、重症敗血症やそれに伴う多臓器不全などの症状の改善のため、国内を中心に多くの臨床現場で使用されてきました。

2006
(株)ユニクロと「戦略的パートナーシップ」開始

服を通じて人々の生活を豊かにするユニクロと、革新技術・素材を通じて社会に新たな価値を提供する東レ。人々の暮らしをより良くしたいという理念を共有する両社のパートナーシップは、機能性・快適性に優れた今までにない新しい価値を有する商品を世界中に提供してきました。

2014
革新複合紡糸技術「NANODESIGN®」を開発

ナノメートルレベルの精度で繊維の断面形状や構造を自在に設計できる革新的な複合紡糸技術を開発。従来の繊維づくりの常識を覆し、新たな機能や風合いを持つ素材の創出を可能にしました。

2015
サウジアラビアで水処理製品の現地生産開始

サウジアラビアToray Membrane Middle East LLCでRO膜エレメントの現地生産を開始。世界有数の海水淡水化市場における事業基盤を確立し、東レの水処理事業のグローバル展開を加速しました。

2025
韓国STEMCO社でパワーインダクタ用コイルの生産を開始

AI搭載スマートフォンやAIデータセンター、自動運転関連機器向けで需要が拡大する薄膜型パワーインダクタ用コイルの生産を開始。次世代半導体・電子部品分野での事業拡大を推進しています。

2025年度 連結売上収益
2兆5,851億円

蓄積された強み

- 先端材料の研究・技術開発力
- 生産・エンジニアリング力
- 高品質・安定供給力
- グローバルなバリューチェーン構築力
- ソリューション提案力
- お客様・パートナーとの共創力
- 多様なプロフェッショナル人材